

新型コロナウイルス禍中の合唱団奮闘記

一部会 田中 敏章

私は東京大学でコール・アカデミーという男声合唱団で歌っていた。そのころまだ合唱活動は盛んで、団員も100名近くいた。現在もそのOB合唱団のアカデミカ・コールで、約60名のメンバーで歌っている。現役のコール・アカデミーは、定期演奏会のほか東京六大学男声合唱連盟（六連）の演奏会毎年開催しており、OBのアカデミカ・コールも、週1回の練習を継続して、他大学OB合唱団とのジョイント・コンサートや2年毎の東京六大学OB合唱連盟演奏会（OB六連）、単独演奏会など活発に活動を続けていた。

2020年3月8日、オランダのコンセルトヘボウで行われた「マタイ受難曲」の演奏会の出演者130人中102人が新型コロナに感染し、4名が死亡したというニュースが合唱界を震撼させた。その後、新型コロナのために、「三密」の合唱は壊滅的な打撃を受け、多くの合唱団は練習を中止し、演奏会も次々に中止に追い込まれてきた。アカデミカ・コールも例外ではなく、練習は中止になり、OB六連も中止になってしまった。

緊急事態宣言が解除された2020年6月、私を含めたアカデミカ・コールの有志12名が集まり、「実験練習」を開始した。練習は月1回細々と続けられ、再度発令された緊急事態宣言下、2021年3月20日に渋谷の美竹教会でミニコンサートを敢行した。聴衆は、ほとんど身内の19名だけだったが、細々と続けてきた練習のエネルギーがまとまった成果として結実した感があった。

2021年6月6日には、現役のコール・アカデミーとの交歓会「コロナなんかに負けないぞ」を行った。現役の状況はかなり悲惨で、対面での新入生勧誘はできず、連絡してきた人にメールを送って勧誘し、去年は1人、今年は4人の新入団員だったとのこと。練習も集まってはでき

ず、webを使つての練習の状態だった。交歓会には、1年から3年までの6人が、参加して若々しいハーモニーを聞かせてくれた。

2022年になつてもコロナはオミクロンになつて衰えは見せなかったが、合唱活動は徐々に活発になってきて、1月16日と9月25日に現役・OB交歓演奏会が開かれ、約10団体が演奏を行った。7月17日には、OB六連が芸術劇場で開催され、アカデミカ・コールは、約50名でパイプオルガンの伴奏で、グノーの第二ミサを歌った。現役も六連が開かれ、コール・アカデミーは9名で歌った。

最近になり、現役の法政大学の男声合唱団がついに廃部になったというニュースが入り、絶滅危惧種の現役コール・アカデミーを存続させるために、財政面の支援だけでなく、演奏会のマネジメントの手伝いなど、OB会副会長として現役の支援活動が続く今日この頃である。